

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 13 年 8 月 調査結果 —

(平成 13 年 9 月 3 日)

○調査期間：平成 13 年 8 月 21 日～27 日

○調査対象：全国の 396 商工会議所が 2622 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 387 製造業 635 卸売業 237  
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)  
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836  
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【平成13年8月調査結果のポイント】

### 業況は一段と悪化。さらに強まる先行き不安

- 8月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、小売業、卸売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲52.0）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲54.2となった。前月は、猛暑効果により、一部の大型小売店などが好調だったため、全産業合計でもマイナス幅が縮小したが、昨年10月以降の業況の悪化傾向は変わらず、今月は、一段と業況が悪化した。全産業合計の業況D1▲54.2は、平成11年2月以来の低水準。先行きに対する不安感が一層強まっており、地域経済や足元の景況感も、さらに厳しい状況にある。

建設業では、「全般的に受注が低迷している。特に公共事業の受注減が顕著。民間工事においては、価格競争が特に激しい」（一般工事）、「受注減少による人員削減が増加」（一般工事）といった厳しい声が多く寄せられている。また、今後の公共工事の発注に期待する声がある一方で、「国の補正予算も、来年度予算も見通しが暗い」（建築工事）などの指摘も多く寄せられている。

製造業では、業況D1は昨年11月以来のマイナス幅拡大から、今月は若干縮小となったが、「好転」とする回答割合は前月よりも低下したほか、引き続き、「受注が回復しない」（電子部品製造）、「先行きが見えないため生産を増やせない」（電子部品製造）、「仕事量の先細りが懸念」（一般産業用機械製造）、「取引先の値引要求が強く採算割れになる」（金属加工機械製造）、「依然として厳しく、廃業も増えてきた」（金属加工機械製造）、「売上等が前年同期の約半分。9月以降の仕事量もほとんど無く、極めて悪い業況」（自動車・同附属品製造）などの指摘が寄せられている。

卸売業では、「連日の猛暑により少しアップ」（食料・飲料卸）といった声がある一方で、「輸入商品の台頭による販売価格の下落等が企業収益を圧迫しており、大変厳しい経営環境にある」（衣服・日用品卸）、「悪天候のため売上が大幅に前年割れ」（食料・飲料卸）、「業界内の倒産は引き続き高い割合で発生」（繊維品卸）といった指摘も寄せられている。

小売業では、引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声寄せられたほか、主に大型店からは「夏物が早く動いた反動で失速気味」（百貨店）、「セールの前倒しや、中元ギフトの早期割引の影響で、前年実績割れ」（百貨店）との声があり、また、商店街からは「暑さの影響で客数減少」といった指摘も寄せられている。

サービス業では、「観光地への入り込み客増加から好況」（一般飲食店）などの指摘が寄せられる一方で、「ソフト開発の受注が減少」（ソフトウェア）、「経営状態が悪いため融資を受けられない店が増えてきた」（酒場、ピアホール）、「採算性が悪く、今後も明るい見通しが無い」（自動車整備）、「客単価の減少が顕著」（食堂・レストラン）、「来店サイクルが長くなった。20～50%オフをして競争する店が増えた」（美容）など、厳しい業況を訴える声も多く寄せられている。

売上面では、小売業において前月水準よりマイナス幅が11.1ポイント拡大したことなどから、全産業合計の売上D1はマイナス幅が2.9ポイント拡大して▲47.0となった。採算面でも、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D1はマイナス幅が3.5ポイント拡大して▲49.5となった。

- 向こう3ヵ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲47.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲28.3）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が一層強まっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、公共工事の見直しや不良債権処理の本格化を含めた政府の構造改革の具体化策、個人消費についての関心が高い。

【業況についての判断】

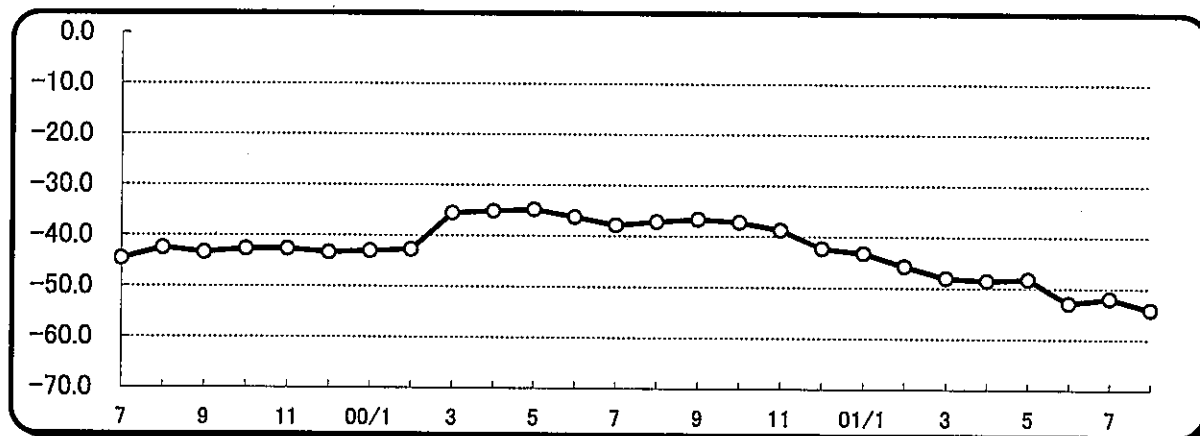
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、小売業、卸売業およびサービス業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲52.0）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲54.2となった。前月は、猛暑効果により、一部の大型小売店などが好調だったため、全産業合計でもマイナス幅が縮小したが、昨年10月以降の業況の悪化傾向は変わらず、今月は、一段と業況が悪化した。地域経済や足元の景況感は、さらに厳しい状況にある。
- 向こう3ヵ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲47.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲28.3）に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きへの不安が一層強まっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲48.1	▲48.6	▲48.3	▲53.0	▲52.0	▲54.2	▲47.1 (▲28.3)
建設	▲60.0	▲57.7	▲59.3	▲62.2	▲60.6	▲60.6	▲57.7 (▲37.7)
製造	▲44.2	▲46.7	▲46.8	▲55.9	▲59.4	▲57.8	▲48.3 (▲18.2)
卸売	▲52.8	▲54.8	▲51.3	▲53.9	▲57.1	▲63.2	▲45.8 (▲27.7)
小売	▲50.1	▲50.7	▲47.6	▲49.9	▲44.2	▲51.1	▲43.1 (▲34.9)
サービス	▲39.6	▲38.7	▲41.9	▲46.3	▲45.2	▲46.3	▲43.9 (▲24.9)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年8月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



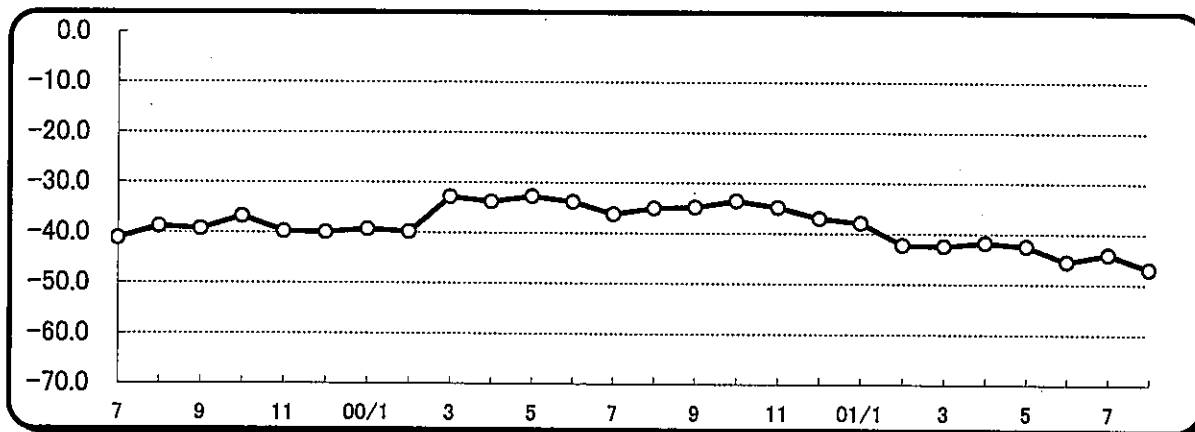
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、前月水準から11.1ポイント拡大した小売業のほか、製造業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が2.9ポイント拡大して▲47.0となった。
- 向こう3ヵ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月ベース)が▲39.5と、昨年同時期の先行き見通し(▲22.7)に比べて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲42.5	▲41.9	▲42.5	▲45.6	▲44.1	▲47.0	▲39.5 (▲22.7)
建設	▲53.5	▲51.6	▲53.1	▲56.1	▲54.6	▲53.8	▲44.3 (▲29.0)
製造	▲33.4	▲39.2	▲38.9	▲46.7	▲49.7	▲50.0	▲39.6 (▲10.6)
卸売	▲44.2	▲44.5	▲46.2	▲47.9	▲56.5	▲56.1	▲40.0 (▲21.5)
小売	▲48.5	▲45.6	▲44.5	▲42.6	▲34.5	▲45.6	▲40.2 (▲33.8)
サービス	▲36.6	▲31.6	▲35.3	▲39.4	▲37.4	▲37.3	▲34.8 (▲18.0)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



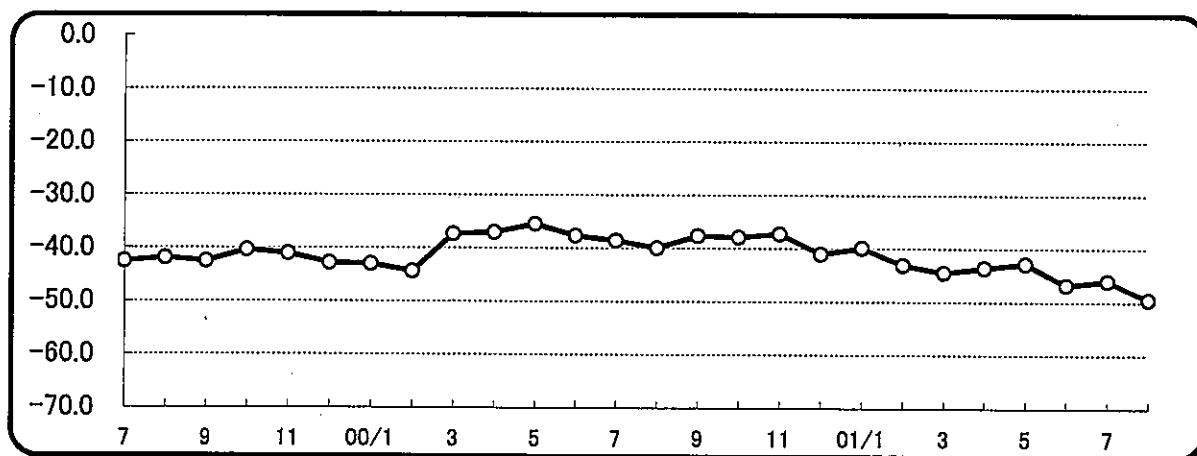
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算D Iはマイナス幅が3.5ポイント拡大して▲49.5となった。
- 向こう3ヵ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲41.1と、昨年同時期の先行き見通し(▲28.0)に比べて非常に厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲44.5	▲43.6	▲42.8	▲46.8	▲46.0	▲49.5	▲41.1 (▲28.0)
建設	▲59.4	▲58.4	▲58.5	▲61.1	▲58.9	▲59.9	▲54.7 (▲39.0)
製造	▲42.5	▲43.7	▲43.8	▲50.5	▲55.0	▲56.1	▲40.3 (▲18.3)
卸売	▲46.6	▲46.5	▲38.5	▲49.1	▲52.2	▲56.1	▲38.7 (▲31.3)
小売	▲44.2	▲42.9	▲41.1	▲39.1	▲34.1	▲43.7	▲39.2 (▲33.5)
サービス	▲35.5	▲32.4	▲34.5	▲41.2	▲39.5	▲39.8	▲36.0 (▲22.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	▲ 30.3	▲ 29.0	▲ 30.1	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 32.5	▲ 30.3 (▲ 19.9)
建設	▲ 35.9	▲ 37.0	▲ 39.2	▲ 43.2	▲ 40.9	▲ 44.1	▲ 41.7 (▲ 27.1)
製造	▲ 30.7	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 36.6	▲ 37.5	▲ 35.4	▲ 32.4 (▲ 15.9)
卸売	▲ 25.4	▲ 24.4	▲ 29.5	▲ 27.8	▲ 28.5	▲ 32.5	▲ 25.4 (▲ 19.4)
小売	▲ 29.0	▲ 29.5	▲ 26.0	▲ 26.8	▲ 27.3	▲ 26.3	▲ 28.0 (▲ 18.9)
サービス	▲ 29.5	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 26.6	▲ 27.8	▲ 27.0	▲ 24.5 (▲ 20.6)

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】製造業、小売業およびサービス業で悪化超感が弱まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	0.3	4.6	3.4	1.5	2.0	3.7	0.6 (▲ 1.9)
建設	0.0	2.5	6.1	6.5	3.3	7.0	▲ 0.7 (▲ 2.1)
製造	▲ 7.8	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 2.0 (▲ 6.1)
卸売	4.3	9.7	5.8	▲ 2.4	6.8	8.4	1.3 (5.1)
小売	8.5	13.6	9.2	7.7	9.7	12.9	5.8 (2.7)
サービス	▲ 2.3	1.3	1.0	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 4.8	▲ 2.5 (▲ 6.2)

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】サービス業を除く全業種で下落超感が強まる。

【先行き見通しDI】卸売業を除く全業種で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲ 12.1	▲ 11.5	▲ 12.8	▲ 15.7	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 14.4 (▲ 10.3)
建設	▲ 22.5	▲ 28.0	▲ 28.9	▲ 31.1	▲ 33.6	▲ 30.8	▲ 26.5 (▲ 20.7)
製造	▲ 16.1	▲ 11.9	▲ 14.9	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.9	▲ 19.9 (▲ 13.8)
卸売	▲ 13.6	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 19.4	▲ 19.3	▲ 18.1	▲ 18.1 (▲ 6.0)
小売	▲ 6.5	▲ 5.9	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 5.2	▲ 4.0	▲ 8.4 (▲ 7.8)
サービス	▲ 6.7	▲ 5.1	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 5.8 (▲ 4.2)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】 サービス業を除く全業種で過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】 全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年8月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「昨年同期に比べ公共事業は減少傾向、競争激化によって収益率が低下」（札幌・一般工事）、「道路公団の統合問題で、今後の高速道路建設に危機感」（釧路・一般工事）、「受注減少による人員削減が増加」（須賀川・一般工事）、「不良債権処理がどんな方法で行われるのか心配」（厚木・一般工事）、「公共工事については、国の補正予算も来年度予算も見通しが暗い」（成田・建築工事）、「今後も全般的に売上の減少が予測される」（いわき・電気工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「受注が回復しない」（塩尻・電子部品製造）、「厳しい状況が続いている。先行きが見えないため、生産を増やすことができない」（伊那・電子部品製造）、「仕事量の先細りが懸念」（千葉・一般産業用機械製造）、「売上等が前年同期の約半分。9月以降の仕事量もほとんど無く、極めて悪い業況」（立川・自動車・同附属品製造）、「発注の減少が続いている」（与野・ブリキ缶等製造）、「原価無視による価格破壊が行われている」（札幌・印刷業）、「秋冬物の生産シーズンに入ったが、受注量少なく先行き不安」（泉大津・ニット製外衣・シャツ製造）、「北方四島周辺への韓国、台湾等からの入漁で、資源枯渇に対する不安が増大」（釧路・水産食料品製造）、といった声がある。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「輸入商品の台頭による販売単価の下落等が企業収益を圧迫しており、大変厳しい経営環境にある」（樫原・衣服・日用品卸）、「向こう3ヵ月の売上高上昇を期待したいが、その材料が見当たらない」（新発田・商店街）、「IT関連企業の業績下方修正や株安によって消費マインドが悪化しており、先行きの不安材料となっている」（京都・百貨店）、「先行きの不安は、今までにないほど感じている」（多治見・すし店）、「6月から営業を始めた安売り店の影響が徐々に出てきているようだ」（上越・理容）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが目立ってきている。「仕入先の材木店が廃業するなど、大変厳しい状況にある」（鎌倉・木造建築工事）、「官公庁工事、民間工事ともに新規受注が減少。今後、倒産の多発が予想される」（長崎・一般工事）、「依然として厳しく、廃業も増えてきた」（浜松・金属加工機械製造）、「業界内の倒産は引き続き高い割合で発生」（上越・繊維品卸）、「不況の為、自己破産を申し立てた企業あり」（瀬戸・家具・建具等卸）、「当商店街でまた1店舗閉店した」（山形・商店街）、「老舗で廃業された店があり、大変厳しい状況にある」（鎌倉・商店街）、「スナックの廃業が特に多い」（福山・食堂、レストラン）などの指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 6月	先行き不透明感	単価下落	倒産・廃業
13年 7月	先行き不透明感	倒産・廃業	猛暑の影響
13年 8月	先行き不透明感	倒産・廃業	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。



(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも、前月は2ヵ月連続でのマイナス幅拡大から反転してマイナス幅が縮小したが、今月は、売上D1が縮小、採算D1が拡大、業況D1は前月と同水準になっている。「全般的に受注が低迷している。特に公共事業の受注減が顕著。民間工事においては、価格競争が特に激しい」(一般工事)、「受注減少による人員削減が増加」(一般工事)といった厳しい声が多く寄せられている。また、今後の公共工事の発注に期待する声がある一方で、「国の補正予算も、来年度予算も見通しが暗い」(建築工事)などの指摘も多く寄せられている。
製 造	業況D1は前月まで9ヵ月続いたマイナス幅拡大から今月は縮小となったが、売上D1は3ヵ月連続、採算D1は2ヵ月連続してマイナス幅拡大となっている。引き続き、「受注が回復しない」(電子部品製造)、「先行きが見えないため生産を増やせない」(電子部品製造)、「仕事量の先細りが懸念」(一般産業用機械製造)、「取引先の値引要求が強く採算割れになる」(金属加工機械製造)、「依然として厳しく、廃業も増えてきた」(金属加工機械製造)、「売上等が前年同期の約半分。9月以降の仕事量もほとんど無く、極めて悪い業況」(自動車・同附属品製造)などの指摘が寄せられている。
卸 売	売上D1は前月まで7ヵ月続いたマイナス幅拡大から今月はわずかに縮小となったが、業況・採算D1は、いずれも3ヵ月連続してマイナス幅拡大となっている。「連日の猛暑により少しアップ」(食料・飲料卸)といった声の一部ある一方で、「輸入商品の台頭による販売価格の下落等が企業収益を圧迫しており、大変厳しい経営環境にある」(衣服・日用品卸)、「悪天候のため売上が大幅に前年割れ」(食料・飲料卸)、「業界内の倒産は引き続き高い割合で発生」(繊維品卸)といった指摘も寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大しており、特に、売上・採算D1は前月までの5ヵ月連続縮小の反動から、10ポイント前後の大幅な拡大となっている。引き続き、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの声が寄せられたほか、主に大型店からは「夏物が早く動いた反動で失速気味」(百貨店)、「セールの前倒しや、中元ギフトの早期割引の影響で、前年実績割れ」(百貨店)との声が、また、商店街からは「暑さの影響で客数減少」といった指摘も寄せられている。
サービス	業況・採算D1は、2ヵ月ぶりに前月水準に比べてマイナス幅が拡大し、売上D1は、2ヵ月連続で縮小となっている。「観光地への入り込み客増加から好況」(一般飲食店)などの指摘が寄せられる一方で、「ソフト開発の受注が減少」(ソフトウェア)、「経営状態が悪いため融資を受けられない店が増えてきた」(酒場、ビアホール)、「採算性が悪く、今後も明るい見通しが無い」(自動車整備)、「客単価の減少が顕著」(食堂・レストラン)、「来店サイクルが長くなった。20～50%オフをして競争する店が増えた」(美容)など、厳しい業況を訴える声も多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

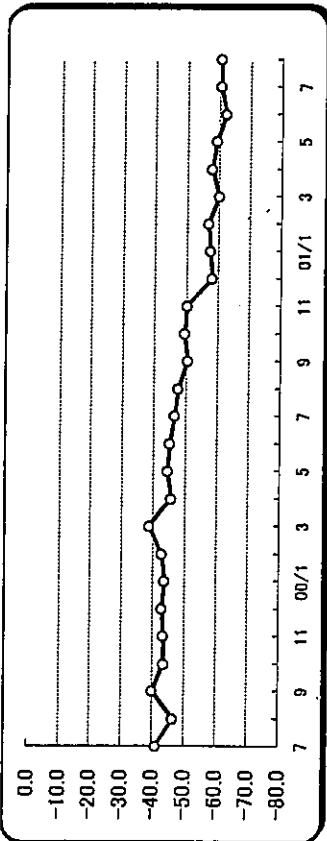
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別に見ると、北海道、北陸信越および四国を除く各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。
- ブロック別の向こう3ヵ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

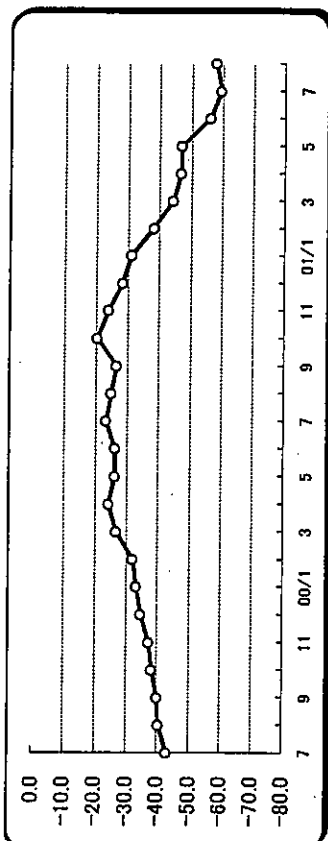
	13年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	▲ 48.1	▲ 48.6	▲ 48.3	▲ 53.0	▲ 52.0	▲ 54.2	▲ 47.1 (▲ 28.3)
北 海 道	▲ 40.3	▲ 44.5	▲ 43.5	▲ 39.8	▲ 44.4	▲ 40.3	▲ 46.5 (▲ 35.2)
東 北	▲ 53.3	▲ 50.9	▲ 50.0	▲ 54.0	▲ 53.7	▲ 58.0	▲ 54.9 (▲ 30.9)
北陸信越	▲ 45.7	▲ 48.8	▲ 43.5	▲ 52.5	▲ 58.0	▲ 52.2	▲ 46.1 (▲ 28.0)
関 東	▲ 46.9	▲ 41.1	▲ 39.5	▲ 50.9	▲ 48.4	▲ 50.6	▲ 43.5 (▲ 22.6)
東 海	▲ 46.7	▲ 53.3	▲ 49.1	▲ 57.6	▲ 46.3	▲ 57.4	▲ 50.0 (▲ 28.4)
近 畿	▲ 51.5	▲ 56.2	▲ 60.3	▲ 58.4	▲ 56.8	▲ 64.1	▲ 52.4 (▲ 29.9)
中 国	▲ 50.6	▲ 49.7	▲ 54.2	▲ 58.8	▲ 54.6	▲ 57.5	▲ 45.2 (▲ 37.7)
四 国	▲ 51.4	▲ 60.9	▲ 57.4	▲ 54.9	▲ 63.7	▲ 57.9	▲ 47.7 (▲ 28.3)
九 州	▲ 45.8	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 48.2	▲ 49.7	▲ 41.0 (▲ 25.2)

業況D I (前年同月比)の推移(全国)

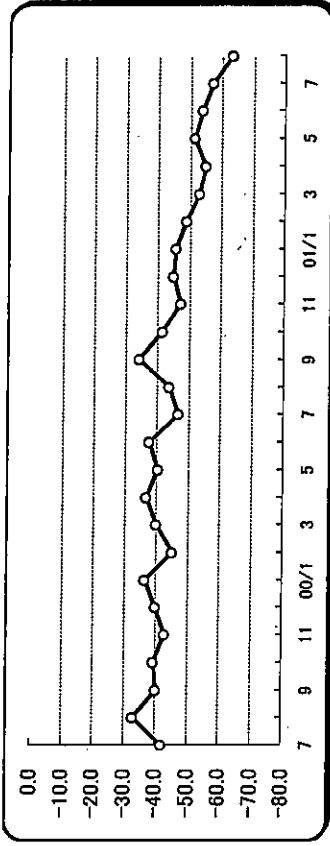
建設業



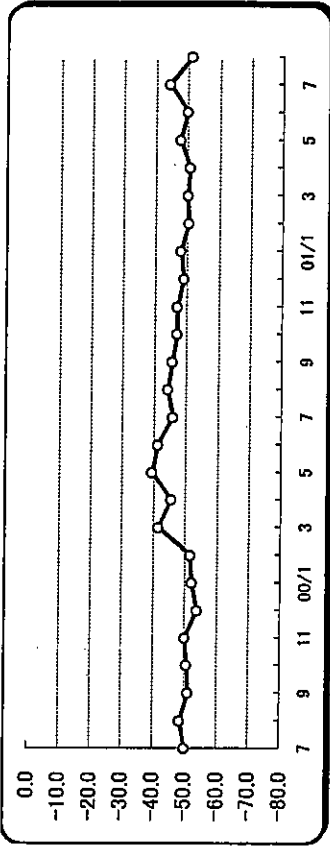
製造業



卸売業



小売業



サービス業

